

1 探究課題の設定動機及び目的

令和5年3月に「維和中学校」が閉校となった。自分の通った母校の校舎を「維和中学校歴史館」として残す取り組みを中学時代に行った。しかし、これまでの卒業生や縁のある方々はもちろんのこと、ここに中学校があったんだということを多くの方に知ってもらうためにも、この維和島の歴史館に足を運んでもらうにはどうしたらよいかを考えていた。そのとき、地元、上天草市が「SDGs 未来都市」に選定され、地域の魅力発信に力をいれておられることを知った。そこで、具体的にはどのような取り組みがされているのか、また、私達地元出身の高校生に何かできることはないかを考え実践していきたいと思い、この探究課題を設定した。

2 仮説

海と関連が深いこの地域をSDGsの観点から伝えられる魅力を発信することで、実際に上天草市・維和島に足を運んでもらい、関係人口を増やし、歴史館を多くの方に認知してもらうことができる。また、上天草市が「SDGs 未来都市」に選ばれた理由は①海という観光資源があること②過疎化に対する行政の取り組みが評価されたことだと考える。その具体を調査し仮説を立証していきたい。



3 調査内容（方法）

- (1) 「SDGs 未来都市」とはどのような都市かを調べる
- (2) 「SDGs 未来都市」選定された都市の実際の取り組みや変化と現状について調べる
- (3) 上天草市の現状、取り組もうとしていることについて調べる

4 調査結果

- (1) SDGs 未来都市とは
 - ・2018年から毎年30都市程度を選定している。
 - ・自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs 未来都市」として選定。
 - ・特に優れた提案を行った10都市の事業→「自治体SDGsモデル事業」
 - ・判断方法→経済、社会、環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市、地域

(2) 過去に選定された「SDGs 未来都市」
 29都市(2018)／31都市(2019)／33都市(2020)
 31都市(2021)／30都市(2022)／28都市(2023)
 県内では小国町、熊本市、水俣市、菊池市、山都町、八代市、上天草市が今までで選定されている。

(3) 県内「SDGs 未来都市」の取り組みの例

イ) 山都町：化学肥料や化学合成農薬に頼らず、土が本来持つ力を生かし、生き物と共生しながら行う農法に取り組む→環境に優しくエコな農業「有機農業」



イ) 小国町：地熱エネルギーを活用し木材を乾燥させ、化石燃料を使わずに良質な乾燥剤を作り出す



(4) 上天草市の世代別人口の推移について



過去20年で15歳未満が3000人減、労働人口8500人減し、高齢者は微増している。

(5) 上天草市「SDGs 未来都市」としての取り組み

ア) ブルーツーリズム推進委員会
 ブルーツーリズムとは環境に配慮しながら取り組むツアーの企画・実施のこと。

【親子釣り教室】 【パールライン釣り大会】



イ) JTB 地球いきいきプロジェクト

【シーカヤック体験と無人島海洋ゴミ収集】

10/29に第1弾を実施。
 第2弾を2024年1月に開催予定
 「維和島クリーン作戦」



5 考察と今後の展望

現在の取り組みは上天草の魅力である「海」を生かしたものが多く、今後も海という観光資源を生かした体験やイベントが有効であると考えられる。この研究を通して「SDGs 未来都市」と上天草市の取り組みについて知ることができた。調査の過程で中学の同級生や維和を中心に活動している方々、JTBの方々など沢山のひとと関わることができた。私達、高校生だけでできることは小さいことかもしれないが、今回関わったような方々と力を合わせ、上天草の魅力を発信し、私たちの「維和中学校歴史館」にも足を運んでもらいたい。これから情報の発信や、イベント参加だけでなく、高校生の視点で新たな提案や企画をすることで、地元の魅力を高めていくことに貢献したい。